

Dell Private Cloud

絶えず変化するビジネス環境に対応する動的で
柔軟な IT アーキテクチャ

Alex Arcilla、Omdia 検証サービス部門、プリンシパルアナリスト
2026年1月

目次

はじめに.....	3
背景.....	3
Dell Private Cloud.....	4
Omdia技術検証.....	6
Dell Private Cloud のシンプル化された構成.....	6
Dell Private Cloud を使用して時間と労力を削減.....	8
ユースケース1：Dell Private Cloud 環境へのノードのオンボーディング.....	9
ユースケース2：既存のDell Private Cloud 環境にVMware 3ノード クラスターを作成する.....	9
ユースケース3：Dell Private Cloudクラスターを準備して「ワークロード対応」にする.....	10
全体的なコスト削減.....	10
結論.....	13

はじめに

このOmdiaによる技術検証では、組織がDell Private Cloudを使用することでどのようなメリットを得られるかについての評価を文書化しています。当社は、Dell Private Cloudで一元化されたエクスペリエンスを通じて、デル・テクノロジーズのインフラストラクチャとサポートされているエコシステムのライフサイクルの導入、構成、管理を支援し、運用にかかる時間と労力を削減する方法を検証しました。また、ハイパーコンバージドインフラストラクチャと比較して、Dell Private Cloudでどのようにコストを削減できるかについても検討しました。

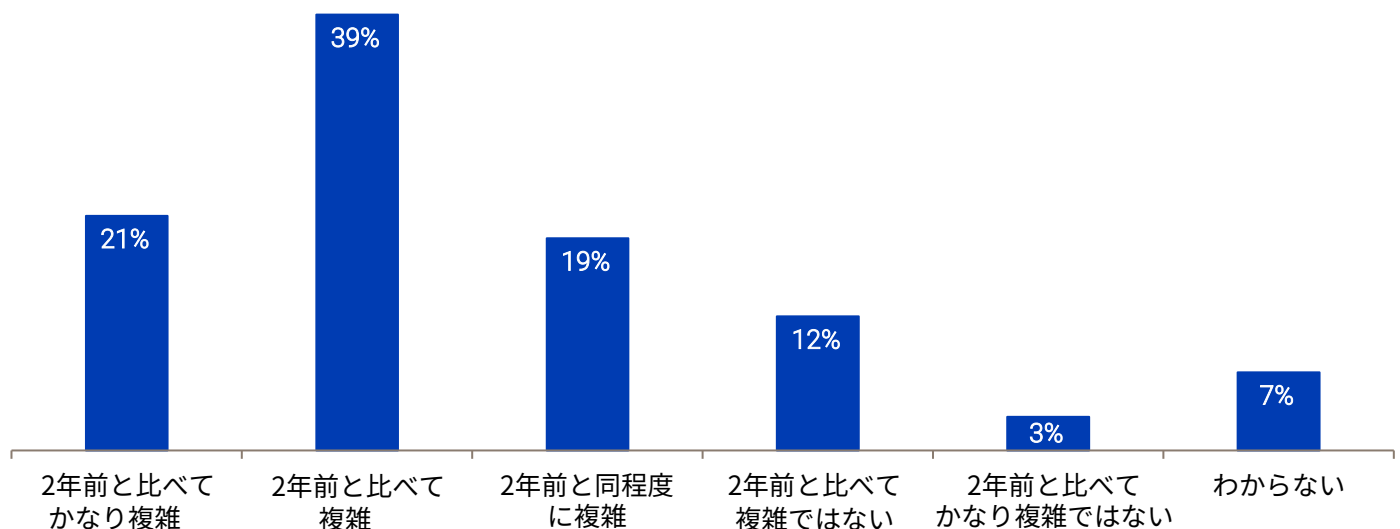
背景

組織は、ビジネス環境の絶え間ない変化に直面しています。日々のビジネスでは、従来のワークロード（VM、データベース、VDI）をサポートするアーキテクチャが必要とされており、それを満たすことが期待されています。一方、組織では、そのアーキテクチャを最新のワークロード（コンテナ、エッジアプリケーション、AI）をサポートするものに進化させることへのプレッシャーの激化に直面しています。

- IT環境での継続的な複雑性。** Enterprise Strategy Group（現Omdia）の調査によると、79%の組織が、2年前と比較して、IT環境が少なくとも同等程度に複雑であると回答しています（図1を参照）。これは、サイバーセキュリティを取り巻く環境の変化、新しい技術、特にAIの導入の必要性、およびデータ量の増加などの傾向からすると、驚くには当たりません。¹

図1. IT環境は依然として複雑さに悩まされている

一般的に、組織のIT環境は2年前と比較してどの程度複雑ですか？（回答者の割合、N=843）



出典: Omdia

¹ 出典: EnterpriseStrategyGroup調査レポート、『[2025TechnologySpendingIntentionsSurvey](#)』（2024年12月）。

- 進化する仮想化サプライヤーのエコシステム。ハイパーバイザーのライセンスとパッケージに対する最近の変更により、多くの組織が仮想化オプションを再考するようになりました。特に、最新のワークロードの導入が増加している組織では顕著です。実際、Enterprise Strategy Group (現Omdia) の調査によると、上級IT意思決定者の89%が、複数のハイパーバイザーオプションの使用または評価が戦略的に不可欠であると回答しています。²

通常、組織は、2つのアーキテクチャオプションから選択して、ビジネスクリティカルとミッションクリティカル、2タイプのワークロードとアプリケーションをサポートしてきました。個別のサーバー、ストレージ、ネットワークリソースで構成される3階層アーキテクチャにより、ハードウェアリソースを個別に拡張できる柔軟性が得られるため、増大し変化する要件に合わせてカスタマイズできます。しかし、コンポーネントは個別で分離されているため、このアーキテクチャの導入と管理は容易ではありません。一方で、代替手段としてハイパーコンバインドインフラストラクチャ(HCI)が登場しました。HCIは、コンピューティング、ストレージ、ネットワークリソースを個別に管理するのではなく、ソフトウェアを使用して構築されているため、組織はこのソリューションを1つのユニットとして運用および管理できます。HCIを使用することで運用と管理は簡素化されますが、コスト効率に優れた方法での拡張が課題となります。コンピューティングソースとストレージリソースは固定されているため、他のハイパーバイザークラスターに簡単に再割り当てできず、どちらのリソースも十分に使用されない可能性があります。

代替の手法として、組織は3階層の柔軟性と、HCIの導入および管理のシンプルさを兼ね備えた、分離型インフラストラクチャへのアプローチを選択することもできます。これにより、進化するビジネス要件に対応する効率的で適応性に優れた分離型インフラストラクチャを構築できます。さらに重要なのが、IT予算の縮小という観点で、組織は依然としてより少ないリソースでより多くの成果を達成するというプレッシャーに直面していることです。全体的なコスト削減を考慮する必要があります。特に、新しいバージョン（将来を見据えたIT環境など）のハードウェアとソフトウェアを「総入れ替え」することなく、アーキテクチャをどのように進化させて現在と将来の両方のニーズを満たすかを決定する場合には、熟慮が必要です。

Dell Private Cloud

Dell Private Cloudは、分離されたインフラストラクチャ上に構築されており、完全に移転可能で再利用可能なインフラストラクチャとして設計されているため、組織はビジネスニーズの進化に合わせてITアーキテクチャを適応させることができます。このサービスは、従来の3階層アーキテクチャの柔軟性と、HCIのシンプルな運用と管理を組み合わせたものです。他のアーキテクチャとは異なり、分離されたインフラストラクチャはコンピューティング、ストレージ、ネットワーク、セキュリティリソース全体で自由に構成可能であるため、組み込み型セキュリティで独立したリソース拡張を行えます。また、ライセンスロックインのないソフトウェアの柔軟性に加え、ハイパーバイザー、ストレージ管理ツール、AIOps機能との相互運用性をもたらすAPIも利用できます。

Dell Private Cloudを使用すると、組織は新しいテクノロジーの導入を加速してコストとパフォーマンスのさらなる向上、電力消費の削減、セキュリティ機能の強化を実現できます。この分離型インフラストラクチャには、デル・テクノロジーズの包括的な製品ポートフォリオが含まれています（図2を参照）。

- インテル Xeon 6プロセッサを搭載した第17世代のDell PowerEdgeサーバー。**
 インテル Xeon 6プロセッサを搭載したサーバーは、旧世代のインテルCPUと比較して、サーバー統合の拡張とワークロード最適化の向上を促します。Xeon 6にはインテルのTrusted Domain Extensions(TDX)も搭載されており、VM内にハードウェア分離型の信頼済みドメイン

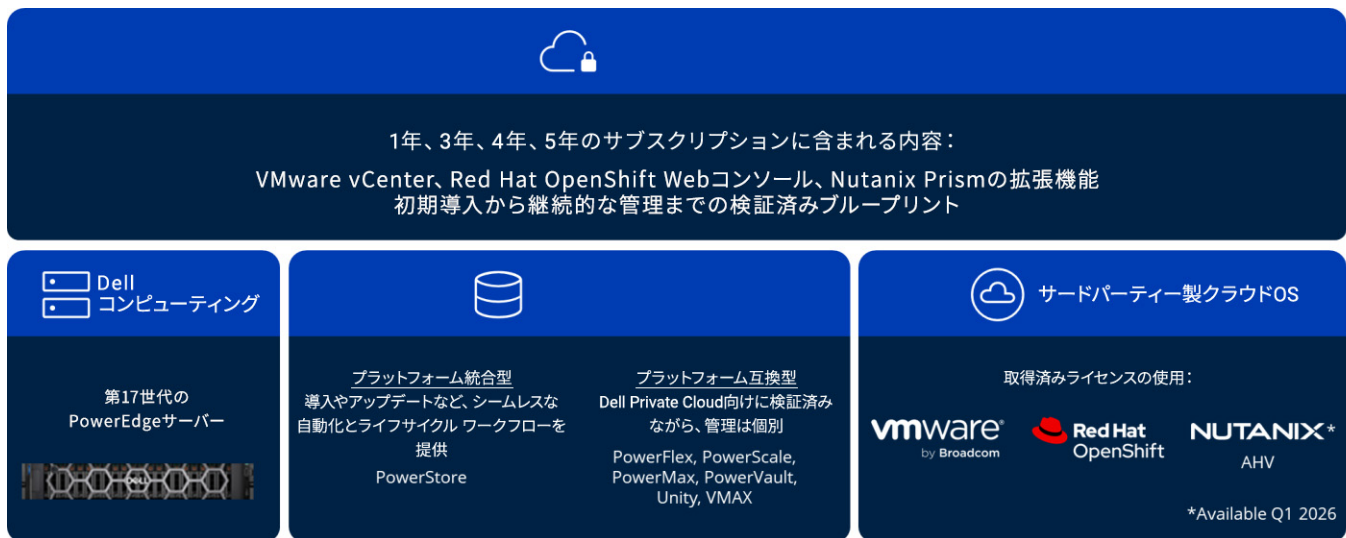
² 出典: EnterpriseStrategyGroup 調査レポート、『[NavigatingtheCloudandAIRevolution:TheStateofEnterpriseStorageandHCI](#)』(2024年3月)。

(TDs)を作成することで、使用中のデータを保護します。VMはサーバー、OS、ハイパーバイザーから分離されているため、攻撃対象領域が縮小します。インテルTDXは、コンフィデンシャルコンピューティング戦略の実装を容易にします。

- **プラットフォーム統合型でプラットフォーム互換性のあるDell Storage。** Dell Private Cloudは、PowerStore、PowerFlex、PowerScale、PowerMax、PowerVault、Unity、VMAXなど、さまざまなDellストレージプラットフォームをサポートしています。
- VMware vSphere、Red Hat OpenShift、Nutanix AHVなどの、**OSとハイパーバイザーの選択肢。**

Dell Private Cloudはまた、コンピューティングとストレージ（図2に示すようにサポートされている場合）、OS、ハイパーバイザー、ネットワーキングに関しても、Bring Your Own (BYOx)向けに設計されています。このオプションを使用すると、組織はDell Private Cloudにより、既存の投資とライセンス契約を活用して全体的なコストを削減することができます。

図2. Dell Private Cloud で現在利用可能なコンポーネント



出典: Omdia

移行と再利用が可能なインフラストラクチャにより、組織はデル・テクノロジーズのハードウェアとソフトウェアへの投資を保護できます。これらのコンポーネントを、さまざまなワークロードのサポートに再利用できるためです。組織は、代替のビジネス要件を満たすために新しいハードウェアとソフトウェアに投資する必要がなくなりました。必要に応じて、デル・テクノロジーズのハードウェアを転用してアップデートし、他のワークロードをサポートすることができます。また、組織が異なるソフトウェアスタック（OSとハイパーバイザー）の使用を選択できるため、Dell Private CloudではDellソフトウェアのライセンスの移行が可能になり、ソフトウェアスタックを切り替えるために追加のライセンスを購入する必要がなくなります。

組織は、Dell Automation Platformを通じて提供されるDell Private Cloudの、基盤となる自動化とオーケストレーション機能を通じて、タイムトゥバリューを短縮できます。アプライアンスのような操作性のこのプラットフォーム機能により、ハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントの従来の「総入れ替え」とは対照的に、Dell Private Cloudエコシステムの自動構成、導入、管理、拡張性が推進されます。本番環境に導入する前の、手動による構成とテストのワークフローのナビゲートには、完了までに数週間かかる可能性があります。これが必要なくなります。また、組織は、Dell Private Cloud導入のライフサイクル全体を通じて価値を迅速に実現することもできます。

Dell Private Cloudの導入により、マルチシステムストレージ管理機能（OSの自動アップデートなど）、使い慣れたサポートとサービスワークフローのためのServiceNow統合、プロアクティブなモニタリングと可観測性のためのDell AIOpsの拡張などが利用可能になります。

こうした分離型アーキテクチャと高度なオーケストレーションを組み合わせることで、Dell Private Cloudは導入から運用管理まで検証済みのデリバリーを保証します。また、組織は、自動化されたライフサイクル管理のメリットに加え、VMware vCenterやRed Hat OpenShift Webコンソールなどのサードパーティー製ツールとの統合によるネイティブエクスペリエンスのメリットも得られます。ソフトウェアアップデートが利用可能になると、Dell Private Cloudにより、導入がコンプライアンスを維持し、検証済みの状態であることが確認されます。検証済みの状態を公開する前に重要なセキュリティパッチを適用する必要性が生じた場合、組織はDell Private Cloud導入の望ましい状態を直ちに構成し、全体的なセキュリティを維持できます。

他のDell製品やソリューションと同様に、Dell Private Cloudを使用している組織は、Dell Technologies Servicesのサポートを受けられます。Dellのグローバルなプレゼンスと広範なエコシステムにより、Dell Technologies Servicesは、多数のプロジェクトとリソースから得られた広範な知識と経験を提供し、組織がDell Private Cloudの導入から最大の価値を引き出せるよう支援します。組織は使用しているOSに関係なく、ソリューションのサポートを受けることができます。また、ソリューション全体で問題を解決するための専門知識を備えた適切なチームにつながるよう最適化される、コールルーティングも利用できます。組織では、個々のコンポーネントに対する適切なサポートを求める必要がなくなりました。組織がクラウドOSスタックを更新すると、サポートとコールルーティングが自動的に更新され、この変更が反映されます。

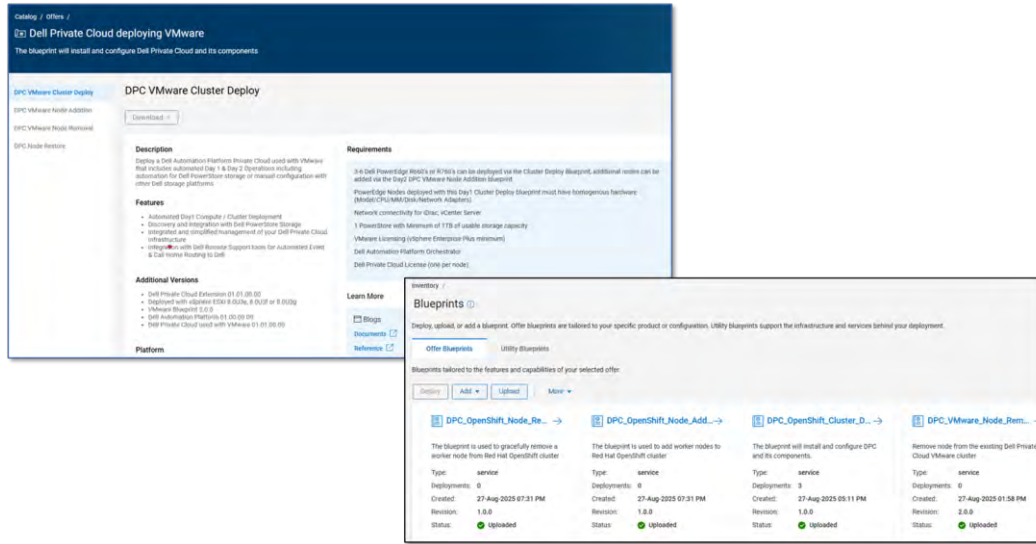
Omdiaによる技術検証

Omdiaは、Dell Private Cloudが、組織の設備投資と運用コストを削減し、全体的なコストを削減するうえでどのように役立つかを検証しました。Dell Private Cloudにより、ハードウェアとソフトウェアの導入および構成がどのようにシンプル化されるかを具体的に評価しました。また、デル・テクノロジーズの社内テストの結果とコストの見積もりをレビューして、組織が期待している時間とコストの削減を明らかにしています。

Dell Private Cloudのシンプル化された構成

アプライアンスのような操作性で、組織はDell Private Cloudの構成と導入を大幅にシンプル化することができます。シンプルなJSONファイルのアップロードを通じて構成、認証情報、パラメーターを入力すると、Dell Private Cloudの基盤となる自動化とオーケストレーションがDell Automation Platformを通じて提供され、その後ブループリントを介して実行される特定のワークフローが決定されます。これにより、手動による介入が不要になり、人為的ミスリスクが軽減されます。Dell Automation Platformの仕組みを説明する目的で、Omdiaはまずブループリントカタログに目を向けました（図3を参照）。ブループリントには、Dell Private Cloudを構成する際に実行される必要があるワークフローの詳細が記載されています。（これは、お客様のサイトへのハードウェアの設置と、プラットフォームオーケストレーターへのオンボードが、適切に行われたことを前提としています）。これらのブループリントはデル・テクノロジーズによって厳選および検証されたもので、0日目から2日目の終わりまでの運用が含まれます。ここでは、VMwareクラスターを構成および導入するためのブループリントを選択しました。選択すると、Dell Automation Platformオーケストレーターはブループリントを実行して、手動操作なしでVMware vSphereクラスターのインストールと構成を完了します。

図3. Dell Private Cloud – ブループリントの選択



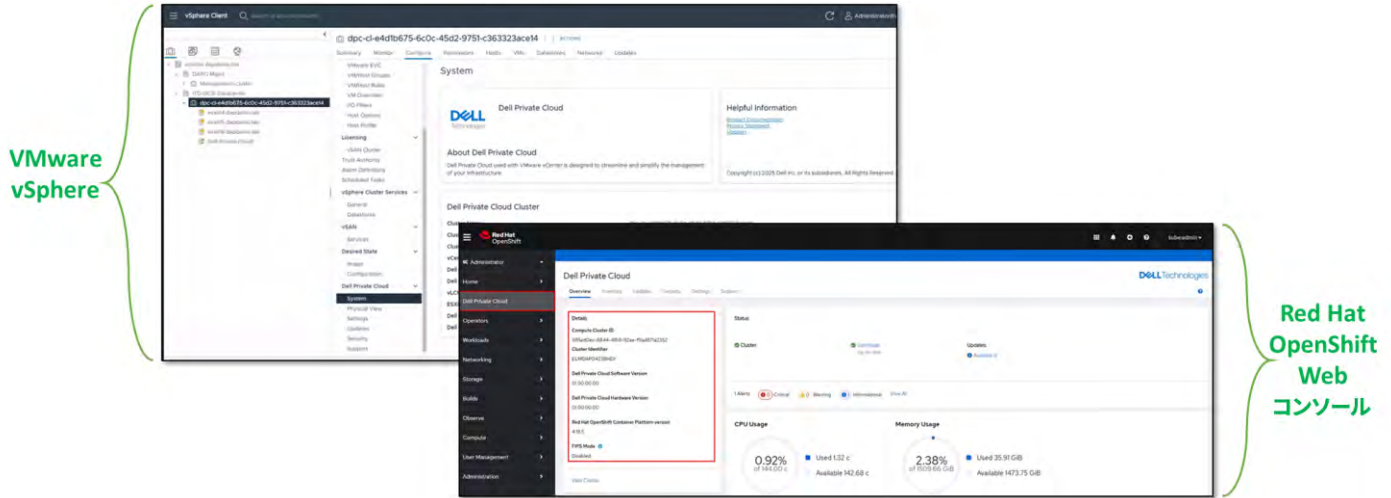
出典: Omdia

Dell Private Cloud インフラストラクチャを別のサードパーティー製OSに転用する場合も、カタログから別の検証済みブループリントを選択するだけです。たとえば、ビジネス上のニーズにより、VMware vSphere（Red Hat OpenShiftなど）以外の別のハイパーバイザーまたはサードパーティー製ソフトウェアの使用が決定された場合、該当するブループリントをオーケストレーターに追加して実行可能で、新しいハイパーバイザーの導入は最小限の手動操作で完了します。このアプローチにより、組織は、VMwareとRed Hatの両方を実行する必要があるような、変化するビジネスニーズに対応する目的で、スケールアップおよびスケールダウンすることが可能になります。

クラスターの導入後、Dell Automation Platformはハードウェアとソフトウェアの両方をライフサイクル全体で管理します。また、自動化されたプライベートクラウドソフトウェア機能でエコシステムを頻繁にテストし、検証済みの状態を継続的に確保します。組織がこうした検証済みの状態からの移行を希望する場合は、緊急のエクスペス アップデートまたはセキュリティパッチに対応するために、制御され文書化された「バージョンドリフト」を許可するオプションを選択することもできます。

このブループリントを実行することで、選択したハイパーバイザーに接続されている管理ツールとオーケストレーションツールの統合が可能になります。図4は、VMware vCenterおよびRed Hat OpenShift Webコンソールとの統合を示しています。

図4. Dell Private Cloud とVMware およびRed Hat ツールの統合



出典: Omdia

これが重要な理由

従来および最新のワークロードをサポートするために、データセンターインフラストラクチャ（サーバー、ストレージ、ネットワーキング）を導入および統合するには、通常、さまざまなツールとワークフローが必要です。残念ながら、こうした状況が、組織のビジネスニーズに対する迅速な対応を大幅に妨げています。

Omdiaでは、Dell Private Cloudにより、進化するビジネスニーズへの対応に必要なインフラストラクチャの導入がどのようにシンプルになるかを検証しました。Dell Private Cloudのライセンスのような操作性により、複数のツールセットを使用して手動でタスクを実行し完了させる必要が、どのように解消されるかを確認しました。デル・テクノロジーズの専門家によってテストされ、検証されたブループリントを使用して、自動化とオーケストレーションにより、ワークロードをサポートするデータセンターリソースの起動と統合に以前は必要であった手動のステップが排除されます。

Dell Private Cloudを使用して時間と労力を削減

Dell Private Cloudで削減される、ハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントの構成、インストール、展開時の時間と労力を数値化するために、Omdiaは、Dell Private Cloudの特定のブループリントを使用して実施されたテストの結果を評価しました。デル・テクノロジーズのテストでは、2か月の期間で45,000時間にわたり、36,000回のテストを実施しました。Dell Private Cloudで発生する可能性のある3つのユースケースについて調査しています（実際の環境で発生した場合、実際の結果は異なる場合があることにご注意ください）。

ユースケース 1: Dell Private Cloud 環境へのノードのオンボーディング

Dell Private Cloud

では、導入用の3つのノードが2分未満で導入されました。

オンボーディング時間を評価するために、テスト実行には、（お客様環境に設置済みの）DellサーバーをDell Private Cloudの導入と管理用のプラットフォームインベントリにオンボードするために必要な手順が含まれていました。この結果は、3つのノードをオンボードしてから64ノードまで拡張するまでの時間を反映しています。手動アプローチは既存のDellツールを使用することを前提としており、「クリック」や入力されたコマンドは「ステップ」と見なされました。このプロセス中に完了したステップは、ゼロタッチ オンボーディングによって自動化されました。

テスト結果に基づいて、Omdiaは、Dell Private Cloud導入のために3つのノードをオンボードする時間が2分未満であることを確認しました。結果からは、オンボードされたノードを追加の時間をかけずに拡張できることも明らかになりました。約64ノードまでの拡張でも2分以内に完了します。Omdiaは、このような短時間での実行は、プラットフォームによって実行される自動化された一連のステップが、インベントリにオンボードされている各ノードに対して同時に実行されることによるものと考えています。並列実行は、追加の時間をかけず操作を拡張する方法においても重要な要素となります。このタスクを手動で完了する場合は、ノードのオンボーディングをシリアルに実行する必要があります。

ユースケース 2: 既存のDell Private Cloud 環境にVMware 3ノード クラスターを作成する

テストの実行には、ハードウェアリソースの起動（検証とハードウェアチェックの実行、必要なソフトウェアパッケージのインストール）、VMware ESXiホストのセットアップ、3ノードクラスターの作成に必要なステップが含まれました。実施されたテストの総数のうち、これらのステップが40%を占めていましたが、残りについては、オンプレミスバージョンとSaaSバージョンの

手動アプローチと比較して、Dell Private Cloudではステップ数が91%削減されました。

Dell Private Cloudの使用、Dell PowerStoreでのファイバーチャネルまたはiSCSIインターフェイスのセットアップなど、結果に影響を与える可能性のある他の変数が検討されました。結果は、実行されたステップ数で定量化されました。比較の際、Dellのブループリントの各行は「ステップ」としてカウントされます。

表1は、各アプローチでカウントされるステップ数を示しています。テストの結果に基づき、Omdiaは、この数が手動のステップ数の大幅削減となる、91%の削減であると算出しました。

表1. VMware vSphereの導入時に実行されるステップ数の削減

導入方法	実行ステップ数
手動	425
Dell Private Cloud	35

出典: Omdia

この大幅な削減に貢献しているのが、Dell Private Cloudによる繰り返しの手動ステップの自動実行です。具体的には、3台のDellサーバーのハードウェアの構成と導入、サーバーファームウェアのアップグレード、VMware ESXiホストの作成に関連するステップです。これらのステップは通常、各サーバーを個別に処理するためシリアルに実行されますが、ブループリントではこれらのステップが並列で自動実行されます。

ユースケース 3: Dell Private Cloud クラスターを「ワークロード対応」にする

Dell Private Cloudをワークロード対応可能な状態にするための所要時間は、約2.5時間でした。

テストの実行には、新しいVMの作成や既存のVMの移行、新しいワークロード用のストレージとネットワークの構成、本番ネットワークに導入する前のアプリケーションまたはワークロードのテストなどのステップが含まれました。Dell Private Cloudハードウェアが導入され、ノードがプラットフォームインベントリにオンボードされると想定しました。結果は、合計完了時間で定量化されました。手動アプローチは既存のDellツールを使用することを前提としており、「クリック」や入力されたコマンドは「ステップ」と見なされました。Dell

Private CloudとDell Automation Platformを使用して完了したステップは、ブループリントを介して自動化されました。

テスト結果に基づき、Omdiaは、Dell Private Cloud導入のワークロード対応にかかる時間が約2.5時間であることを確認しました。この結果は、Dell Private Cloudのブループリントのシンプルさと、導入に手動による操作が必要ないという事実に起因しています。これは、BIOSアップデート、ファームウェアアップデート、vSphereのインストールなど、導入中にDell Private Cloudが一部のタスクを自動的に並行して実行する場合に特に重要です。個々のタスクを最初から最後まで手動で実行すると、個々に完了するまでに数時間かかる場合があります。

これが重要な理由

通常、ワークロード対応インフラストラクチャの導入と構成には、多くの時間と労力が必要です。これは、手動で実行されるプロセス全体で複数のツールを使用することが大きく影響します。Dell Private CloudはDell Automation Platformを通じて提供され、オーケストレーションを活用して、この手動介入を大幅に排除します。

こうした削減を実証する目的で設計されたテスト結果の検証を受けて、Omdiaは、Dell Private Cloudでは3ノードクラスターの導入ステップ数が91%も削減され、2分以内に新しいノードがクラスターにオンボードされ、2.5時間以内にクラスターがワークロード対応になったことを確認しました。

全体的なコストの削減

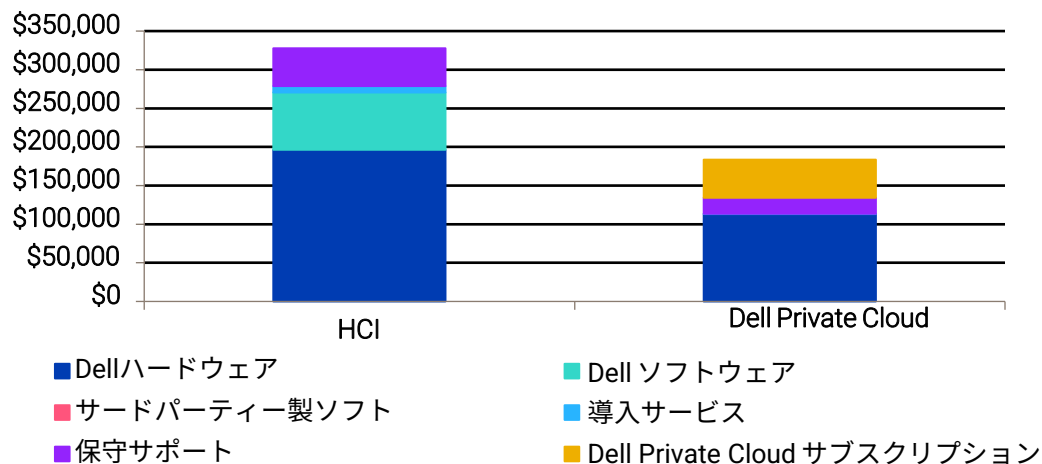
Dell Private Cloudの設計時に、Dellは、以前の代替ソリューション（特にHCI）と比較して全体的なコストが削減可能であるよう、細心の注意を払っています。Omdiaは、Dell Private Cloudのコストと既存のHCIアーキテクチャのコストを比較しました。この分析のコストコンポーネントには、ハードウェア（サーバー、ストレージ、ネットワークカードとスイッチ、メモリーを含む）、ソフトウェア（OSライセンスなど）、導入サービス、販売後サポートの初期可用性での価格が含まれました。

Omdiaはまた、VMwareライセンスの導入について2つの選択肢を検討しました。すでにお持ちのソフトウェアの利用（BYOS）とVMware Cloud Foundation（VCF）ライセンスを購入するパターンです。これらのコスト見積もりで使用されるVMwareライセンスの価格は、最近のパッケージとライセンスの変更を反映しています。

Omdiaはまず、HCIを使用して5ノード クラスターを購入する場合の3年間のコストと、BYOSオプションを使用してDell Private Cloudを使用する場合のコストを比較しました。5ノードの合計ストレージ容量は92 TB、クラスターの合計容量は163 TBでした。ストレージ容量は、適切なデータ削減率に加え、RAID 5のVMware消失訂正符号と1.5倍の圧縮比を使用して達成されました。図5に示すように、**BYOSを使用したDell Private Cloudでは、HCIと比較して44%のコスト削減を達成しました。**

図5. 3年間で44%のコスト削減-Dell Private CloudとHCI (BYOS)の比較

3年間のコスト- Dell Private CloudとHCI (BYOS)の比較 (\$、低い方が良い)

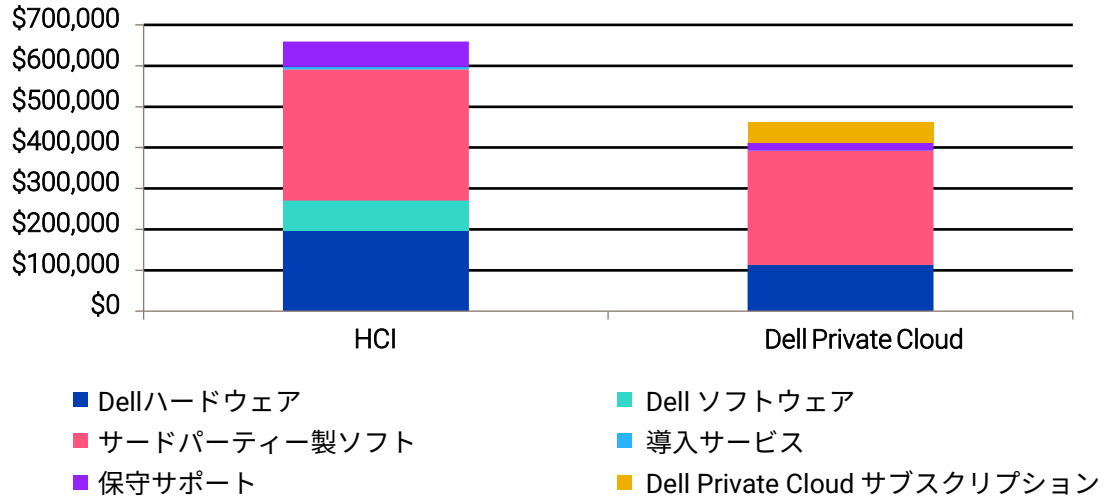


出典: Omdia

その後、Omdiaは、3年間のコストを、HCIを使用して5ノード クラスターを購入した場合と、Dell Private Cloudを使用してVMware VCFライセンスを購入するオプションを付けた場合とで比較しました。前の比較と同じ条件が適用されます。図6に示すように、**VCFを使用したDell Private Cloudでは、HCIと比較して29%のコスト削減を達成しました。**

図6.3年間で29%のコスト削減– Dell Private CloudとHCI (VCF購入)の比較

3年間のコスト- Dell Private CloudとHCI (VCF購入)の比較 (\$、低い方が良い)



出典: Omdia

Omdiaは、表に明示的には記載されていない、その他のコスト削減を達成できる可能性について指摘しました。具体的には次のとおりです。

- ハードウェアの削減。結果として、電力、冷却、ラックスペース、ケーブルのコスト削減、ならびに運用コストとサポートコストの削減につながります。
- Dell Private Cloudの単一管理ポイントによるDay 2の自動化。ソフトウェアアップデートのための手動ワークフローとシリアルワークフローが不要になり、管理運用コストが削減されます。
- 分離型インフラストラクチャ。プラットフォームインベントリに戻された後、他のワークロードにハードウェアを再利用または再プロビジョニングすることで、ハードウェアへの投資を保護します。ワークロードの移行コストも削減できます。³

これが重要な理由

HCIは、組織がワークロードのサポートに使用するハードウェアとソフトウェアの量を削減し、全体的な管理を削減するのに役立ちましたが、このアーキテクチャを使用するには、ライフサイクルの構成、導入、管理に多くの手動タスクが依然として必要です。また、コンピューティングリソースとストレージリソースの比率が固定されているため、他のワークロードへの再利用と再導入が困難になっています。

Omdiaは、Dell Private CloudがHCIよりも低い購入コストを達成できることを検証しました。2つのシナリオ（BYOSとVMware VCFライセンスの購入）について3年間に発生したコストの見積もりを監査したところ、Dell Private Cloudのコストはそれぞれ44%と29%であることがわかりました。

³ ワークロードの移行コストは、コスト計算では考慮されません。

結論

ビジネス ニーズが頻繁に変化する中で、ITアーキテクチャの導入と変更をより迅速かつ効率的に行う必要があります。そうしなければ、組織は競争力を維持できません。2つのアーキテクチャ オプション（3階層アーキテクチャとHCI）がこれまで使用されてきましたが、どちらも、ライフサイクル全体での導入、構成、管理には手動プロセスと複数のツールやインターフェイスが必要であるという事実が残っています。また、ワークロードを他のハードウェアやソフトウェア（OS、ハイパーバイザー）に移行することも困難になり時間がかかります。テクノロジーのアップグレードを検討している組織は、以前に導入したサーバー、ストレージ、ネットワーキング リソースの再利用は困難であることに気づいています。IT予算は時間の経過とともに着実に縮小するため、これらの事実はすべて、不要なコストが発生することに対する懸念につながります。

Dell Private Cloudは、従来および最新のワークロードをサポートし拡張するためのインフラストラクチャの導入を、アプライアンスのような操作感で実行できるようにして、企業が抱えるこれらの問題を軽減するように設計されています。単一のインターフェイスを使用することで、組織は自動化されたプロセスを活用し、ハイパーバイザーとOSを選択してサーバー、ストレージ、ネットワーキングを構成およびテストし、本番環境に導入できます。またDell Private Cloudは、ソフトウェア アップデートなどのライフサイクル管理アクティビティを自動化して、インフラストラクチャがデル・テクノロジーズのベスト プラクティスに従ってコンプライアンスを維持できるようにします。Dell Private Cloudを使用することで、組織はタイムトゥバリューの短縮、アーキテクチャの柔軟性、全体的なコストの削減を達成できます。

評価全体を通じて、Omdiaは、Dell Private Cloudが組織を次のように支援できることを検証しました。

- 分離されたアプローチを活用して、階層アーキテクチャまたはHCIを使用してワークロードインフラストラクチャを構成および導入する際に通常発生する、大量の手作業を排除します。
- ノードのオンボーディング、特定のハイパーバイザーを使用したインフラストラクチャの構成、ワークロードをサポートするためのインフラストラクチャの準備に費やす時間と労力を大幅に削減します。これは主に、Dell Automation Platformにより、複数の反復タスクを並行して実行できるためです。
- BYOSのオプションを検討し、VMwareライセンスを購入すると、HCIと比較して、年間の全体的なコストをそれぞれ44%、および29%削減できます。

Omdiaの検証によると、Dell Private Cloudは、組織がインフラストラクチャを構築する際に求めている自由な選択、アーキテクチャの柔軟性、シンプルさ、コスト削減を可能にできることが実証されています。この評価は、Dell Private Cloudがお客様のビジネスにもたらす価値をより詳細に検討することを推奨する当社の提案を強固にするものです。

著作権に関する通知および免責事項

本書で参照されているOMDIAの調査、データ、情報（以下、「OMDIAの資料」）は、TechTarget, Inc.およびその子会社または関連会社（以下、総称して「Informa TechTarget」）またはそのサードパーティーのデータ プロバイダーの著作物であり、Informa TechTargetが公開するデータ、調査、意見、見解を表すもので、事実を表明するものではありません。

Omdiaの資料には、本書の日付ではなく、原書の発行日からの情報および意見が反映されています。Omdiaの資料に記載されている情報および意見は、予告なく変更される場合があります。Informa TechTargetは、Omdiaの資料またはそれを受けた本資料を更新する義務または責任を負いません。

Omdiaの資料は、「現状有姿」および「入手可能な状態」で提供されます。Omdiaの資料に含まれる情報、意見、および結論の公平性、正確性、完全性、または正しさについて、明示的または黙示的な表明または保証は一切行われません。

法律で認められている最大限の範囲において、Informa TechTargetおよびその関連会社、役員、取締役、従業員、代理人およびサードパーティーのデータ プロバイダーは、Omdiaの資料の正確性、完全性、または使用に関する一切の責任（過失または不注意から生じる責任を含むがこれらに限定されない）を否認します。Informa TechTargetは、いかなる状況においても、Omdiaの資料に基づく、またはこれを信頼して行われた取引、投資、商業、その他の決定について責任を負わないものとします。

お問い合わせ: www.omdia.com askananalyst@omdia.com

